



OSPF 模造リンク MIB サポート

この機能では、新しいテーブルおよびトラップ MIB オブジェクトを Cisco OSPF MIB (CISCO-OSPF-MIB) および Cisco OSPF Trap MIB (CISCO-OSPF-TRAP-MIB) に追加することにより、OSPF 模造リンク機能の MIB サポートが導入されます。また、Open Shortest Path First (OSPF) 模造リンク トラップ オブジェクトの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) 通知をイネーブルにするための、新しいコマンドが追加されています。模造リンク インターフェイス全体におけるエラー、ステート変更、および再送信についての通知が提供されます。

この章で紹介する機能情報の入手方法

お使いの Cisco IOS ソフトウェアが、この章で説明されている機能の一部をサポートしていないことがあります。この章に記載されている機能に関するドキュメントへのリンク、および各機能がサポートされているリリースに関するリストについては、「OSPF 模造リンク MIB サポートの機能情報」(P.13) を参照してください。

プラットフォームと Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージのサポート情報の検索
Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォーム、Cisco IOS ソフトウェア イメージ、および Cisco Catalyst OS ソフトウェア イメージの各サポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

目次

- 「OSPF 模造リンク MIB サポートの前提条件」(P.2)
- 「OSPF 模造リンク MIB サポートの制約事項」(P.2)
- 「OSPF 模造リンク MIB サポートに関する情報」(P.2)
- 「OSPF 模造リンク MIB サポートの設定方法」(P.4)
- 「OSPF 模造リンク MIB サポートの設定例」(P.10)
- 「関連情報」(P.12)
- 「その他の参考資料」(P.12)
- 「コマンドリファレンス」(P.13)
- 「OSPF 模造リンク MIB サポートの機能情報」(P.13)

OSPF 模造リンク MIB サポートの前提条件

- Open Shortest Path First (OSPF) 模造リンクをすでに設定済みであることが前提になります。
- 通知 (トラップ) の設定、または SNMP GET 動作を実行するルータで、SNMP がイネーブルになっている必要があります。

OSPF 模造リンク MIB サポートの制約事項

この機能によって導入されるすべての拡張機能は、Cisco プライベート MIB (CISCO-OSPF-MIB および CISCO-OSPF-TRAP-MIB) によってのみ提供されます。

OSPF 模造リンク MIB サポートに関する情報

ここでは、次の内容について説明します。

- 「PE-PE 間ルータ接続における OSPF 模造リンク」 (P.2)
- 「Cisco OSPF MIB および Cisco OSPF Trap MIB の拡張機能」 (P.2)

PE-PE 間ルータ接続における OSPF 模造リンク

Multiprotocol Label Switching (MPLS; マルチ プロトコル ラベル スイッチング) Virtual Private Network (VPN; バーチャル プライベート ネットワーク) 設定では、模造リンクと呼ばれる仮想接続を設定することにより、同じ OSPF エリア内にある必要がある 2 つの VPN サイト間を相互接続できます。模造リンクは、2 つの Provider Edge (PE; プロバイダー エッジ) ルータを接続する MPLS VPN トンネルに加えて設定します。OSPF パケットは、模造リンク上で伝搬されます。模造リンクの設定の詳細については、次の URL の『OSPF Sham-Link Support for MPLS VPN』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/iproute_ospf/configuration/guide/iro_sham_link.html

Cisco OSPF MIB および Cisco OSPF Trap MIB の拡張機能

OSPF 模造リンク MIB サポート機能では、Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、12.2(31)SB2、および 12.2(33)SXH の Cisco OSPF MIB (CISCO-OSPF-MIB) および Cisco OSPF Trap MIB (CISCO-OSPF-TRAP-MIB) に新しいテーブルおよびトラップ MIB オブジェクトを追加することにより、OSPF 模造リンクの MIB サポートが導入されます。また、OSPF 模造リンク トラップ オブジェクトの SNMP 通知をイネーブルにするための、新しいコマンドが追加されています。模造リンク インターフェイス全体におけるエラー、ステート変更、および再送信についての通知が提供されます。次の項では、拡張機能について説明します。

- 「OSPF 模造リンク設定のサポート」 (P.3)
- 「OSPF 模造リンク ネイバーのサポート」 (P.3)
- 「OSPF 模造リンク インターフェイスの移行ステート変更のサポート」 (P.3)
- 「OSPF 模造リンク ネイバーの移行ステート変更のサポート」 (P.4)
- 「模造リンクのエラー」 (P.4)

OSPF 模造リンク設定のサポート

cospfShamLinksTable テーブル オブジェクトには、OSPF エリアに対して設定されている模造リンクに関する情報が保存されます。Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、12.2(31)SB2、および 12.2(33)SXH 以降では、cospfShamLinksTable により cospfShamLinkTable が置き換えられます。cospfShamLinksTable テーブルを使用すると、次の MIB オブジェクトにアクセスできます。

- cospfShamLinksAreaId
- cospfShamLinksLocalIpAddrType
- cospfShamLinksLocalIpAddr
- cospfShamLinksRemoteIpAddrType
- cospfShamLinksRemoteIpAddr
- cospfShamLinksRetransInterval
- cospfShamLinksHelloInterval
- cospfShamLinksRtrDeadInterval
- cospfShamLinksState
- cospfShamLinksEvents
- cospfShamLinksMetric

OSPF 模造リンク ネイバーのサポート

cospfShamLinkNbrTable テーブル オブジェクトには、すべての OSPF 模造リンク ネイバーのエントリが記述されます。cospfShamLinkNbrTable を使用すると、次の MIB オブジェクトにアクセスできます。

- cospfShamLinkNbrArea
- cospfShamLinkNbrIpAddrType
- cospfShamLinkNbrIpAddr
- cospfShamLinkNbrRtrId
- cospfShamLinkNbrOptions
- cospfShamLinkNbrState
- cospfShamLinkNbrEvents
- cospfShamLinkNbrLsRetransQLen
- cospfShamLinkNbrHelloSuppressed

OSPF 模造リンク インターフェイスの移行ステート変更のサポート

OSPF 模造リンク インターフェイスにおける移行ステート変更についてネットワーク マネージャに通知するには、cospfShamLinksStateChange トラップ オブジェクトを使用します。Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、および 12.2(31)SB2 では、cospfShamLinksStateChange トラップ オブジェクトにより、従来の cospfShamLinkStateChange トラップ オブジェクトが置き換えられます。cospfShamLinksStateChange トラップ オブジェクトには、次の MIB オブジェクトが含まれます。

- ospfRouterId
- cospfShamLinksAreaId

- cospfShamLinksLocalIpAddrType
- cospfShamLinksLocalIpAddr
- cospfShamLinksRemoteIpAddrType
- cospfShamLinksRemoteIpAddr
- cospfShamLinksState

OSPF 模造リンク ネイバーの移行ステート変更のサポート

OSPF 模造リンク ネイバーにおける移行ステート変更についてネットワーク マネージャに通知するには、cospfShamLinkNbrStateChange トラップ オブジェクトを使用します。

cospfShamLinkNbrStateChange トラップ オブジェクトには、次の MIB オブジェクトが含まれます。

- ospfRouterId
- cospfShamLinkNbrArea
- cospfShamLinksLocalIpAddrType
- cospfShamLinksLocalIpAddr
- cospfShamLinkNbrIpAddrType
- cospfShamLinkNbrIpAddr
- cospfShamLinkNbrRtrId
- cospfShamLinkNbrState

模造リンクのエラー

OSPF 模造リンクの設定、認証、および不良パケットのエラーに関するトラップ通知が行われます。これらのエラーには、次のトラップ オブジェクトが含まれます。

- cospfShamLinkConfigError
- cospfShamLinkAuthFailure
- cospfShamLinkRxBadPacket



(注)

Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、および 12.2(31)SB2 では、模造リンク上での認証がまだサポートされないため、cospfShamLinkAuthFailure トラップは生成されません。また、Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、および 12.2(31)SB2 では cospfShamLinkRxBadPacket トラップもサポートされないため、cospfShamLinkRxBadPacket トラップは生成されません。ただし、既存の OSPF 不良パケット トラップからは情報を取得できます。

OSPF 模造リンク MIB サポートの設定方法

この項では、OSPF 模造リンク MIB サポート機能の設定タスクについて説明します。一覧内の各作業は、必須と任意に分けています。

- 「SNMP 通知を送信するためのルータの設定」(P.5) (必須)
- 「OSPF 模造リンクのエラー トラップのイネーブル化」(P.6) (必須)
- 「OSPF 模造リンクの再送信トラップのイネーブル化」(P.7) (必須)

- 「OSPF 模造リンクのステート変更トラップのイネーブル化」(P.8) (必須)
- 「ルータ上の OSPF 模造リンク MIB トラップの確認」(P.10) (任意)

SNMP 通知を送信するためのルータの設定

ルータによる ERM-MIB に定義した SNMP 通知（トラップまたはインフォーム）の送信をイネーブルにするには、次の作業を行います。SNMP 通知はルータで設定でき、GET 操作は、MIB サポートをイネーブルにした後にだけ外部管理ステーションから実行できます。

OSPF 設定エラー通知

OSPF 設定エラー通知の送信をイネーブルにするには、次のトラップをイネーブルにします。

- cospfShamLinkConfigError
- cospfShamLinkAuthFailure
- cospfShamLinkRxBadPacket

手順の概要

1. enable
2. show running-config
3. configure terminal
4. snmp-server host {hostname | ip-address} [vrf vrf-name] [traps | informs] [version {1 | 2c | 3} [auth | noauth | priv]] community-string [udp-port port] [notification-type]
5. snmp-server enable traps ospf
6. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	show running-config 例： Router# show running-config	実行コンフィギュレーションを表示して、SNMP エージェントがすでに動作しているかどうかを判断します。 • SNMP の情報が表示されない場合は、次の手順に進みます。SNMP の情報が表示された場合は、情報を修正するか、または必要に応じて情報を変更できます。
ステップ 3	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<pre>snmp-server host {hostname ip-address} [vrf vrf-name] [traps informs] [version {1 2c 3 [auth noauth priv]]] community-string [udp-port port] [notification-type]</pre> <p>例： Router(config)# snmp-server host 172.20.2.162 version 2c public ospf</p>	<p>SNMP 通知操作の受信者（ターゲット ホスト）を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>notification-type</i> が指定されていない場合は、イネーブルになっている全通知（トラップまたは応答要求）が、指定されたホストに送信されます。 指定されたホストに OSPF 通知だけを送信するには、オプションの ospf キーワードを <i>notification-types</i> の 1 つとして指定します（例を参照）。
ステップ 5	<pre>snmp-server enable traps ospf</pre> <p>例： Router(config)# snmp-server enable traps ospf</p>	<p>OSPF MIB 内に定義されている全 SNMP 通知をイネーブルにします。</p> <p>(注) この手順が必要なのは、すべての OSPF トラップ（OSPF 模造リンクのトラップを含む）をイネーブルにする場合だけです。</p> <p>no snmp-server enable traps ospf コマンドを入力すると、すべての OSPF トラップ（OSPF 模造リンクのトラップを含む）がディセーブルになります。</p>
ステップ 6	<pre>end</pre> <p>例： Router(config)# end</p>	<p>コンフィギュレーション セッションを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>

OSPF 模造リンクのエラー トラップのイネーブル化

OSPF 模造リンクの設定エラーが検出されると、通知が送信されます。模造リンクの設定エラー通知の送信をイネーブルにするには、次の `cospfShamLinkConfigError` トラップをイネーブルにします。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error**
4. **snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink [authentication [bad-packet [config] | [config [bad-packet]]]**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例： Router> enable</p>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<p>configure terminal</p> <p>例： Router# configure terminal</p>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error</p> <p>例： Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error</p>	<p>OSPF 非仮想インターフェイスの不一致エラーに対するエラー トラップをイネーブルにします。</p> <p>(注) 両方のトラップを同じ場所に作成し、仮想リンクでの設定エラーに関する一貫性を保つためには、snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink コマンドを入力する前に、snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error コマンドを入力する必要があります。</p> <p>cospfospfConfigError トラップを設定する前に cospfShamLinkConfigError トラップをイネーブルにしようとする、cospfConfigError トラップを最初に設定しなければならないことを通知するエラー メッセージが表示されます。</p>
ステップ 4	<p>snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink [authentication [bad-packet [config] [config [bad-packet]]]</p> <p>例： Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink</p>	<p>OSPF 模造リンクのエラーに対するエラー トラップをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> authentication キーワードを使用すると、OSPF 模造リンク インターフェイス上での認証障害のみに対する SNMP 通知がイネーブルになります。 bad-packet キーワードを使用すると、OSPF 模造リンク インターフェイス上でのパケット解析エラーのみに対する SNMP 通知がイネーブルになります。 config キーワードを使用すると、OSPF 模造リンク インターフェイス上での設定不一致エラーのみに対する SNMP 通知がイネーブルになります。
ステップ 5	<p>end</p> <p>例： Router(config)# end</p>	<p>コンフィギュレーション セッションを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>

OSPF 模造リンクの再送信トラップのイネーブル化

模造リンク上で OSPF パケットの再送信が検出されると、通知が送信されます。模造リンクのパケット再送信通知をイネーブルにするには、次の cospfShamLinkTxRetransmit トラップをイネーブルにします。

手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. snmp-server enable traps ospf cisco-specific retransmit [packets [shamlink | virt-packets] | shamlink [packets | virt-packets] | virt-packets [shamlink]]
4. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	snmp-server enable traps ospf cisco-specific retransmit [packets [shamlink virt-packets] shamlink [packets virt-packets] virt-packets [shamlink]] 例： Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific retransmit shamlink	OSPF 模造リンクの再送信エラーに対するエラー トラップをイネーブルにします。
ステップ 4	end 例： Router(config)# end	コンフィギュレーション セッションを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

OSPF 模造リンクのステート変更トラップのイネーブル化

模造リンク インターフェイスおよび模造リンク ネイバーのステート変更が検出されると、通知が送信されます。模造リンクのステート変更通知の送信をイネーブルにするには、次の `cospfShamLinksStateChange` トラップをイネーブルにできます。このトラップにより、従来の `cospfShamLinkStateChange` トラップおよび Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、12.2(31)SB2 において新たに導入された `cospfShamLinkNbrStateChange` トラップが置き換えられます。

- `cospfShamLinksStateChange`
- `cospfShamLinkNbrStateChange`



(注)

置き換えられた `cospfShamLinkChange` トラップは現在もイネーブルにできますが、新しい `cospfShamLinksStateChange` トラップをイネーブルにする場合にはイネーブルにできません。

手順の概要

1. enable

2. `configure terminal`
3. `snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change [nssa-trans-change | shamlink [interface | interface-old | neighbor]]`
4. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><code>enable</code></p> <p>例： Router> enable</p>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<p><code>configure terminal</code></p> <p>例： Router# configure terminal</p>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p><code>snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change [nssa-trans-change shamlink [interface interface-old neighbor]]</code></p> <p>例： Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change</p>	<p>すべてのシスコ固有の OSPF ステート変更トラップをイネーブルにします。これには、Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、および 12.2(31)SB2 において新たに導入された <code>cospfShamLinksStateChange</code> トラップおよび <code>cospfShamLinkNbrStateChange</code> トラップが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • neighbor キーワードを使用すると、OSPF 模造リンク ネイバーのステート変更トラップがイネーブルになります。 • interface キーワードを使用すると、OSPF 模造リンク インターフェイスのステート変更トラップがイネーブルになります。 • interface-old キーワードを使用すると、Cisco IOS Release 12.0(30)S および 12.3(14)T の <code>cospfShamLinksStateChange</code> トラップおよび <code>cospfShamLinkNbrStateChange</code> トラップによって置き換えられる、従来の OSPF 模造リンク インターフェイスのステート変更トラップがイネーブルになります。 <p>(注) 新しいおよび置換された模造リンク インターフェイスの移行ステート変更トラップの両方をイネーブルにできないため、interface および interface-old の両方のキーワードを入力できません。これらのトラップは、いずれか一方だけを設定するか、両方とも設定しないでください。</p>
ステップ 4	<p><code>end</code></p> <p>例： Router(config)# end</p>	<p>コンフィギュレーション セッションを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>

ルータ上の OSPF 模造リンク MIB トラップの確認

この手順で、OSPF 模造リンク MIB サポートがイネーブルになっていることを確認します。

手順の概要

1. **enable**
2. **show running-config | include traps**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	show running-config include traps 例： Router# show running-config include traps	現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。イネーブルになっているトラップに関する情報が含まれています。 • トラップがイネーブルになっているかどうかを確認します。

OSPF 模造リンク MIB サポートの設定例

ここでは、次の設定例について説明します。

- 「[OSPF 模造リンクのエラー トラップのイネーブル化と確認：例](#)」(P.10)
- 「[OSPF ステート変更トラップのイネーブル化と確認：例](#)」(P.11)
- 「[OSPF 模造リンクの再送信トラップのイネーブル化と確認：例](#)」(P.12)

OSPF 模造リンクのエラー トラップのイネーブル化と確認：例

次に、シスコ固有の OSPF 模造リンクのエラー トラップをすべてイネーブルにする例を示します。ただし、**snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink** コマンドの入力を最初に試みた際には、**snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error** コマンドを最初に入力する必要があるというエラー メッセージが表示されることに注意してください。

```
Router# configure terminal

Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.

Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink

% Sham-link config error trap not enabled.
% Configure "cisco-specific errors config-error" first.
% This requirement allows both traps to be sent.

Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error
Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink
Router(config)# end
```

show running-config コマンドを実行して、トラップがイネーブルになっていることを確認します。

```
Router# show running-config | include traps
```

```
snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error
snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink
```

トラップをディセーブルにする際に、**snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink** コマンドの前に **no snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error** コマンドを入力すると、模造リンクの設定エラー トラップもまたディセーブルになっていることを示すメッセージが表示されます。

```
Router# configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
Router(config)# no snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error
```

```
! This command also disables the previously-enabled shamlink configuration error traps.
```

```
Router(config)# end
```

OSPF ステート変更トラップのイネーブル化と確認 : 例

次に、シスコ固有の OSPF ステート変更トラップをすべてイネーブルにする例を示します。これには、Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、および 12.2(31)SB2 において新たに導入された `cospfShamLinksStateChange` トラップおよび `cospfShamLinkNbrStateChange` トラップが含まれます。

```
Router# configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink
```

show running-config コマンドを実行して、トラップがイネーブルになっていることを確認します。

```
Router# show running-config | include traps
```

```
snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink interface
snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink neighbor
```

snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink コマンドにより、Cisco IOS Release 12.0(30)S、12.3(14)T、12.2(33)SRA、および 12.2(31)SB2 において新たに導入された `cospfShamLinksStateChange` トラップに対する、模造リンク インターフェイスのステート変更がイネーブルになることに注意してください。

従来の `cospfShamLinkStateChange` トラップをイネーブルにするには、最初に

`cospfShamLinksStateChange` トラップをディセーブルにする必要があります。**snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink interface-old** コマンドの入力を試みると、次のエラー メッセージが表示されます。

```
Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink interface-old
```

```
% Cannot enable both sham-link state-change interface traps.
```

```
% Deprecated sham link interface trap not enabled.
```

```
Router(config)# no snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink interface
```

```
Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change shamlink interface-old
```

OSPF 模造リンクの再送信トラップのイネーブル化と確認：例

次に、OSPF 模造リンクの再送信トラップをすべてイネーブルにする例を示します。

```
Router# configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
Router(config)# snmp-server enable traps ospf cisco-specific retransmit shamlink
Router(config)# end
```

show running-config コマンドを実行して、トラップがイネーブルになっていることを確認します。

```
Router# show running-config | include traps
```

```
snmp-server enable traps ospf cisco-specific retransmit shamlink
```

関連情報

SNMP および SNMP 操作の詳細については、『*Cisco IOS Network Management Configuration Guide*』の「Configuring SNMP Support」を参照してください。

その他の参考資料

ここでは、OSPF 模造リンク MIB サポート機能に関する参考資料を紹介します。

関連資料

関連項目	参照先
OSPF 模造リンクの設定	『 OSPF Sham-Link Support for MPLS VPN 』
SNMP の設定	『 Cisco IOS Network Management Configuration Guide 』
SNMP コマンド	『 Cisco IOS Network Management Command Reference 』

規格

規格	タイトル
なし	—

MIB

MIB	MIB リンク
<ul style="list-style-type: none"> CISCO-OSPF-MIB CISCO-OSPF-TRAP-MIB 	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、および機能セットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

RFC

RFC	タイトル
なし	—

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ログイン ID またはパスワードを取得していない場合は、Cisco.com でまず登録手続きを行ってください。	http://www.cisco.com/en/US/support/index.html

コマンド リファレンス

この章に記載されている 1 つ以上の機能で、次のコマンドが追加または変更されています。これらのコマンドの詳細については、『Cisco IOS IP Routing: OSPF Command Reference』を参照してください。Cisco IOS の全コマンドの詳細については、<http://tools.cisco.com/Support/CLILookup> にあるコマンド検索ツールを使用するか、または『Cisco IOS Master Command List』を参照してください。

- **snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors config-error**
- **snmp-server enable traps ospf cisco-specific errors shamlink**
- **snmp-server enable traps ospf cisco-specific retransmit**
- **snmp-server enable traps ospf cisco-specific state-change**

OSPF 模造リンク MIB サポートの機能情報

表 1 に、この機能のリリース履歴を示します。

ご使用の Cisco IOS ソフトウェア リリースによっては、コマンドの中に一部使用できないものがあります。特定のコマンドに関するリリース情報については、コマンドリファレンス マニュアルを参照してください。

プラットフォーム サポートとソフトウェア イメージ サポートに関する情報を入手するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator を使用すると、Cisco IOS および Catalyst OS ソフトウェア イメージがサポートする特定のソフトウェア リリース、機能セット、またはプラットフォームを確認できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注)

表 1 には、一連の Cisco IOS ソフトウェア リリースのうち、特定の機能が初めて導入された Cisco IOS ソフトウェア リリースだけが記載されています。特に明記していない限り、それ以降の一連の Cisco IOS ソフトウェア リリースでもその機能はサポートされます。

表 1 OSPF 模造リンク MIB サポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
OSPF 模造リンク MIB サポート	12.0(30)S 12.3(14)T 12.2(33)SRA 12.2(31)SB2 12.2(33)SXH	この機能では、新しいテーブルおよびトラップ MIB オブジェクトを Cisco OSPF MIB (CISCO-OSPF-MIB) および Cisco OSPF Trap MIB (CISCO-OSPF-TRAP-MIB) に追加することにより、OSPF 模造リンク機能の MIB サポートが導入されます。また、Open Shortest Path First (OSPF) 模造リンク トラップ オブジェクトの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) 通知をイネーブルにするための、新しいコマンドが追加されています。模造リンク インターフェイス全体におけるエラー、ステート変更、および再送信についての通知が提供されます。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2004–2008 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2004–2011, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.